血液科

1. スタッフ(2018年4月1日現在)

科 長(教 授)神田 善伸 外来医長(准教授)大嶺 病棟医長(助 教) 蘆澤 正弘 医 員(教 授)室井 一男(兼) 司 (教 授)大森 (講 師)藤原慎一郎 家国 翁 佐藤 一也 外島 正樹(兼) 上田 真寿(兼) (学内講師) 畑野かおる (助 教)山本 千裕 石原 優子(派遣) (病院助教) 上原 英輔(派遣) 森田 薫

2. 診療科の特徴

北関東における血液疾患診療の数少ない拠点病院として、地域と連携しながら血液疾患全般の診断と治療をおこなっている。世界標準治療の安全な遂行は言うまでもなく、再発・難治性造血器腫瘍に対しても分子標的治療薬や遺伝子細胞治療、造血幹細胞移植を駆使して治療成績の向上に努めている。加えて、新たなエビデンス創出を目指し、数多くの臨床研究を主導的に実施するとともに、多施設共同臨床試験や新薬の開発治験にも積極的に参加している。更に、遺伝子治療や細胞治療を中心とした先端医療の研究開発にも取り組んでいる。

山崎 諒子 皆方 大佑

当科の最大の特徴は造血幹細胞移植療法に積極的に取り組んでいる点が挙げられる。移植治療の実績は国内トップクラスであり、本学や近隣の施設ばかりでなく全国からの紹介患者にも広く対応している。血液診療に精通した薬剤師、看護師、検査技師、臨床心理士、理学療法士、栄養士も診療に積極的に参加することで多面的な患者サポートが可能な体制を取っている。

検査部門においてはフローサイトメトリー解析や染色 体解析、白血病キメラ遺伝子解析を院内でおこなうこと が可能である。急性白血病の迅速な診断から治療が可能 な体制が整っている。稀な疾患である、血栓・出血性疾 患についてもエキスパートが診療に関わり精密な治療が 可能である。

また、造血幹細胞移植の臨床における問題点に立脚した基礎研究をおこなっている。高度免疫不全マウスを用

いた移植片対宿主病モデルや白血病モデルを作成し発症 のメカニズム解析や治療実験をおこなっている。

• 認定施設

日本血液学会認定研修施設

日本輸血細胞治療学会認定教育施設

日本造血細胞移植学会認定施設

日本臨床腫瘍学会認定研修施設

日本がん治療認定医機構認定研修施設

• 認定医

日本血液学会専門医	14名
日本血液学会指導医	7名
日本内科学会認定医	19名
日本内科学会専門医	5名
日本内科学会指導医	8名
日本輸血・細胞治療学会認定医	3名
日本がん治療認定医	2名
日本がん治療暫定教育医	1名
日本造血細胞移植学会認定医	5名
日本臨床腫瘍学会暫定指導医	1名

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1)新来患者•再来患者数•紹介率

新来患者数447人再来患者数14,896人紹介率83.0%

2)入院患者数 (病名別のべ人数)

病 名	患者数
急性骨髄性白血病	84
急性リンパ芽球性白血病	60
ホジキンリンパ腫	10
非ホジキンリンパ腫	185
成人T細胞性白血病	13
多発性骨髄腫	48
慢性骨髄性白血病	3
再生不良性貧血	5
骨随異形成症候群	17
慢性骨髄単球性白血病	2
造血幹細胞移植ドナー	26
特発性血小板減少性紫斑病	3
血友病	2
その他	33
(造血幹細胞移植患者)	(68)
合 計	491

3)手術症例病名別件数

病 名	人数
骨髓採取術	14
末梢血幹細胞採取術	12

4)治療成績

急性骨髄性白血病初回寛解率	76.5%
急性リンパ球性白血病初回寛解率	100%
びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	
初回R-CHOP療法寬解率	82.3%

5) 死亡症例 • 死因

白血病	8
悪性リンパ腫	7
骨髓異形成症候群	3
多発性骨髄腫	3
成人T細胞性白血病	3
その他	7
合 計	31
剖 検 数	2

6) 主な検査・処置数

骨髄穿刺	約1000件
骨髄生検	約800件
遺伝子診断	約165件
細胞表面抗原解析	約1340件

4. 2018年の目標・事業計画等

平成28年3月に無菌病床16床を増床し、合計24床が 稼働している。これらを効率よく利用し、以前にも増し て依頼が増加している急性白血病、悪性リンパ腫、多発 性骨髄腫に代表される難治性造血器腫瘍に対して、造血 幹細胞移植療法を円滑に遂行する。

地域医療との連携を強化するため、平成27年度から、栃木県立がんセンター、那須赤十字病院、及び芳賀赤十字病院に常勤医師を派遣している。平成29年度の芳賀赤十字病院の常勤医師増員に引き続き、平成30年度には那須赤十字病院への常勤医師も増員し、両地区の診療体制を更に強化していく予定である。

更に、地域における血液内科診療の充実を目指し、血液科のスタッフが県内外の拠点病院において、非常勤医として専門外来を行なっている。来年度も地域拠点病院への医師派遣を継続してゆく予定である。

来年度も引き続き新規治療薬、及び新規治療法の研究 開発に積極的に参加する。現在、9つの企業治験、10 の遺伝子解析研究、20以上の医師主導多施設共同臨床 研究が遂行、あるいは計画されている。以下に代表的な 研究を列挙する。

企業治験

- 1. 再発または難治性のCD19陽性 B 細胞性急性リンパ 芽球性白血病患者を対象としたTBI1501の多施設共 同第 I / II 相臨床試験
- FLT3遺伝子変異を有する再発又は治療抵抗性の急性骨髄性白血病(AML)患者を対象としたASP2215とサルベージ化学療法の多施設共同非盲検ランダム化比較第Ⅲ相試験他7件

遺伝子解析研究

- 1. 急性骨髄性白血病における予後規定因子となる遺伝 子変異の探索
- 網羅的遺伝子解析を用いた骨髄増殖性腫瘍の病態解明と診断治療法の開発他8件

医師主導多施設共同臨床研究

- 1. CD19特異的キメラ抗原受容体発現リンパ球を用いた再発難治性B細胞性悪性リンパ腫に対する遺伝子治療臨床研究
- 2. 血細胞移植医療の全国調査 関東造血幹細胞移植共 同研究グループ (KSGCT) 移植患者データベース 作成調査研究
- 3. 再生不良性貧血に対する低用量抗ヒト胸腺細胞免疫 グロブリン (ATG) を用いた同種造血幹細胞移植 療法の有効性と安全性の検討
- 4. 高リスク進行期造血器疾患に対する移植後免疫抑制剤投与量を調整した低用量アレムツズマブ併用 HLA不適合同種造血幹細胞移植の安全性と有効性 の検討
- 5. 標準リスク進行期造血器疾患に対する低用量アレム ツズマブ併用HLA不適合同種造血幹細胞移植の有 効性の検討
- 6. 未治療症候性多発性骨髄腫に対するボルテゾミブ、 シクロホスファミド、デキサメタゾンによる導入療 法、自家末梢血幹細胞移植療法およびレナリドミド による地固め療法・維持療法に関する有効性と安全 性の検討
- 7. 骨髄異形成症候群における移植決断からの治療戦略 に関する前方視的検討
- 8. 難治性濾胞性リンパ腫に対するbendamustineを併用 した前処置による同種造血幹細胞移植療法の安全性 と有効性の検討(第1/2相試験)
- 9. GVHD予防法に抗ヒト胸腺細胞免疫グロブリンを用いたgraft-versus-host方向HLA-抗原不適合血縁者からの造血幹細胞移植療法の多施設共同第II相試験
- 10. 多発性骨髄腫に対する同種造血幹細胞移植後のレナリドミドを用いた維持療法の安全性の前方視的研究
- 11. 初回不応または初回再発CD33陽性高齢者急性骨髄 性白血病に対するCA-GO療法の有効性の検討

- 12. 血液疾患患者における全身化学療法および放射線 照射後の抗ミュラー管ホルモンを用いた妊孕性温 存の評価に対する前方視的研究
- 13. ベンダムスチン療法におけるサイトメガロウイル ス再活性化についての前方視的研究
- 14. PNHレジストリ(発作性夜間ヘモグロビン尿症患者登録)
- 15. 重症および最重症再生不良性貧血患者に対するウサギ抗胸腺細胞グロブリン(サイモグロブリン)前方視的ランダム化用量比較多施設共同研究(APBMT AAWG-01)
- 16. 高齢者造血器腫瘍に対するフルダラビン・全身放射線照射を前処置とした同種移植療法
- 17. 骨髄不全患者におけるPNH関連の臨床症状を経時 的に見る観察研究 (SUPREMACY)
- 18. 初発フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病に対するダサチニブ併用化学療法と同種造血幹細胞移植を行う前向き多施設共同臨床第Ⅱ相試験
- 19. 同種造血幹細胞移植後のフィラデルフィア染色体 陽性急性リンパ性白血病に対するダサチニブを用 いた維持療法の有効性の検討
- 20. 血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫に対するR-CHOP +R-大量MTX療法の第Ⅱ相試
- 21. 造血幹細胞移植後におけるB型肝炎ウイルス再活性 化の実態および予防に関する多施設共同臨床研究
- 22. 高リスク成人骨髄異形成症候群を対象としたアザシチジン投与法に関する臨床第Ⅲ相試験-検体集積事業に基づく遺伝子解析研究を含む-
- 23. 骨髄不全症候群および発作性夜間ヘモグロビン尿症 (PNH) 疑い症例におけるGPIアンカー膜蛋白欠損血球の保有率とその意義を明らかにするための観察研究
- 24. 65歳以下自家造血幹細胞移植後再発多発 性骨髄腫 に対するボルテゾミブおよびレナリドミドによる 再寛解療法と維持療法、および自家・同種造血幹 細胞移植による再発後治療の有効性と安全性の検討(CYMBAL)